

平成29年度 沖縄子供の貧困緊急対策事業アンケート 調査結果について

(概要)

平成30年7月6日

内閣府沖縄振興局事業振興室
沖縄県子ども生活福祉部子ども未来政策課

1 調査概要

1. 調査の目的

子供たちの未来が生まれ育った環境によって左右されることなく、自分の可能性を追求できる社会の実現を目指し、沖縄子供の貧困緊急対策事業の効果的な実施のため、沖縄県の支援を受けている子供の現状等を把握することを目的とする。

2. 調査票種別

- (1)居場所用配布 (子供用)
- (2)支援員配布 (保護者用)

3. 調査実施時期

平成29年12月

4. 収集方法・回収状況

市町村が調査票を配布・回収し、受託者が集計した。

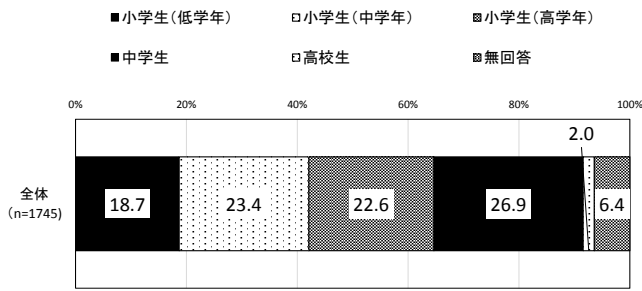
- (1)居場所用 (子供用)
配布数 2,937件 (26市町村) 回収数 (回収率) 1,745件 (59.4%)
- (2)支援員用 (保護者用)
配布数 749件 (22市町村) 回収数 (回収率) 400件 (53.4%)

5. 調査研究業務受託者

公立大学法人大阪府立大学大学院 人間社会システム科学研究科 山野則子研究室

2 居場所に関する調査結果

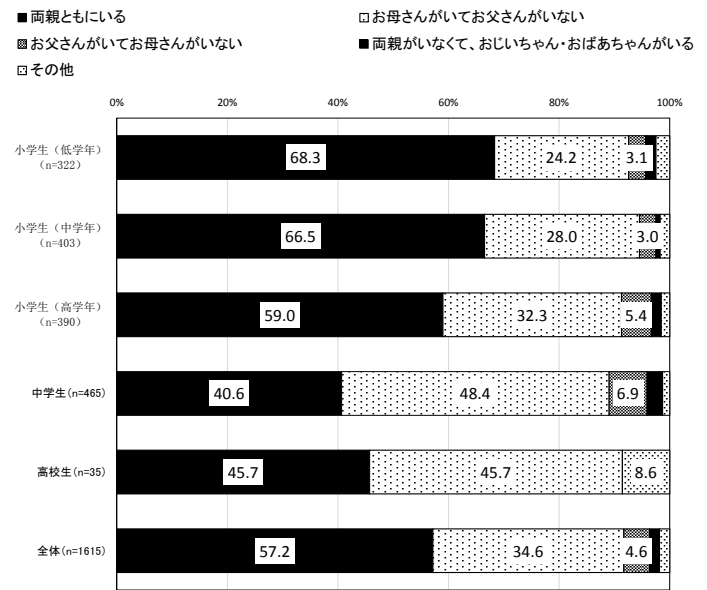
◇回答者の内訳



1745名が有効サンプルで内訳として「小学生低学年」が326名で18.7%
 「小学生中学年」が408名で23.4%
 「小学生高学年」が394名で22.6%
 「中学生」が470名で26.9%
 「高校生」が35名で2.0%
 「無回答」が112名で6.4%である。

2016年度に実施した沖縄調査と比較すると、回答者は700名増加。
 特に小学校低学年(61名→326名)と中学生(272名→470名)において顕著である。

◇居場所に来る子供の世帯構成

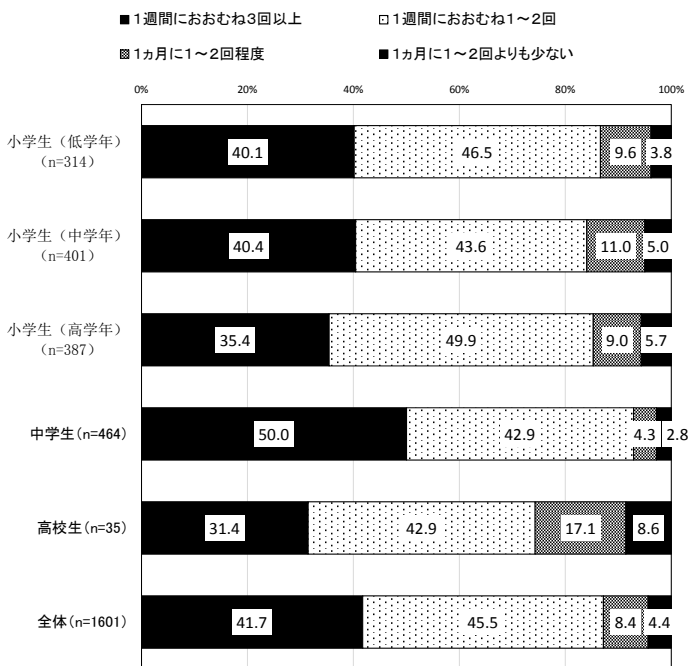


小学生は「両親ともにいる」が6割～7割程度、中学生・高校生は「両親ともにいる」が4割程度

母子家庭の割合が一番高いのは、48.4%の中学生である。

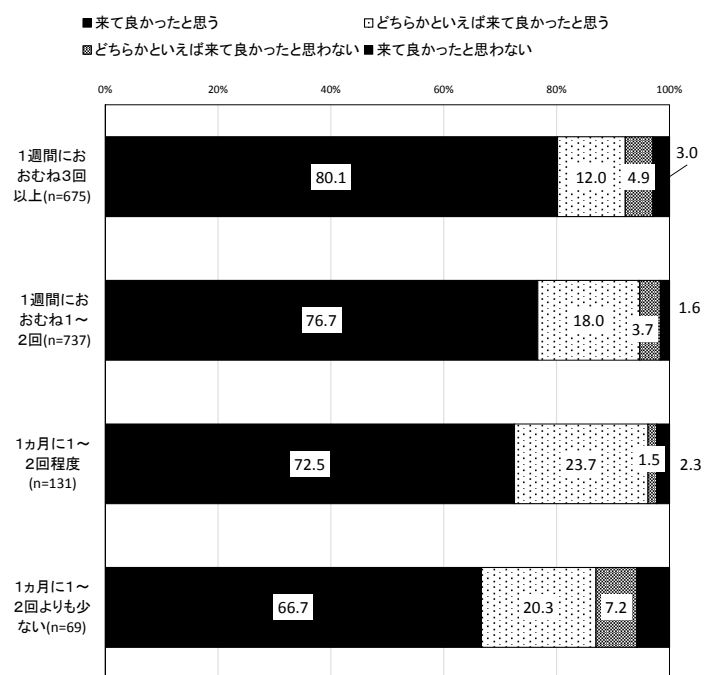
■居場所に関すること

◇居場所に来る回数



居場所に来る回数について見ると、中学生において「1週間におおむね3回以上」の割合が一番高くなっている。

◇居場所利用頻度別に見た居場所の感想

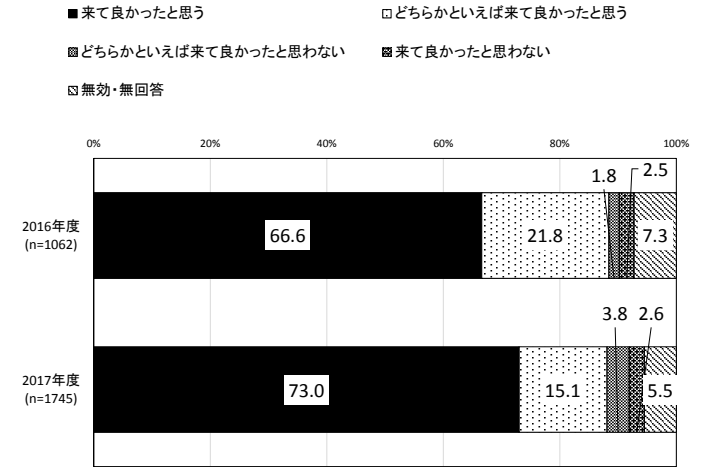
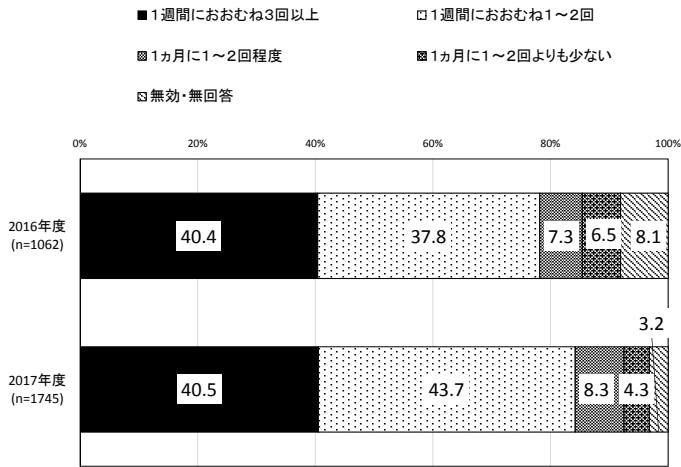


居場所の利用頻度が高くなるにつれ、「来てよかったと思う」割合が高くなっている。

■ 居場所に関すること (2016年度と2017年度の比較)

◇ 2016年度と2017年度の居場所に来る回数

◇ 2016年度と2017年度の居場所の感想



比較的頻度が高い「1週間におおむね3回以上」と「1週間におおむね1~2回」をあわせた回答割合は、2016年度が78.2%で、2017年度が84.2%となっており、2017年度の方が居場所に来る頻度が高い子供が増えている。

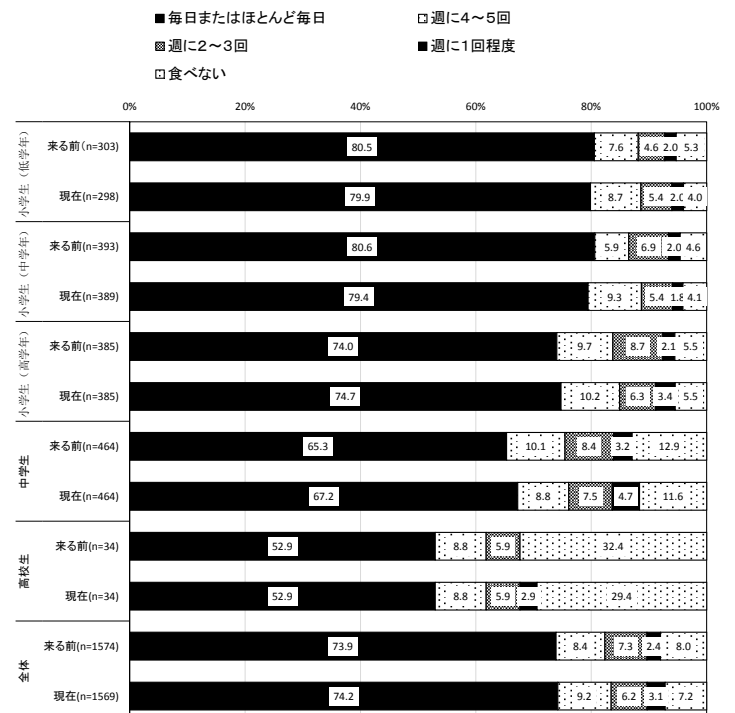
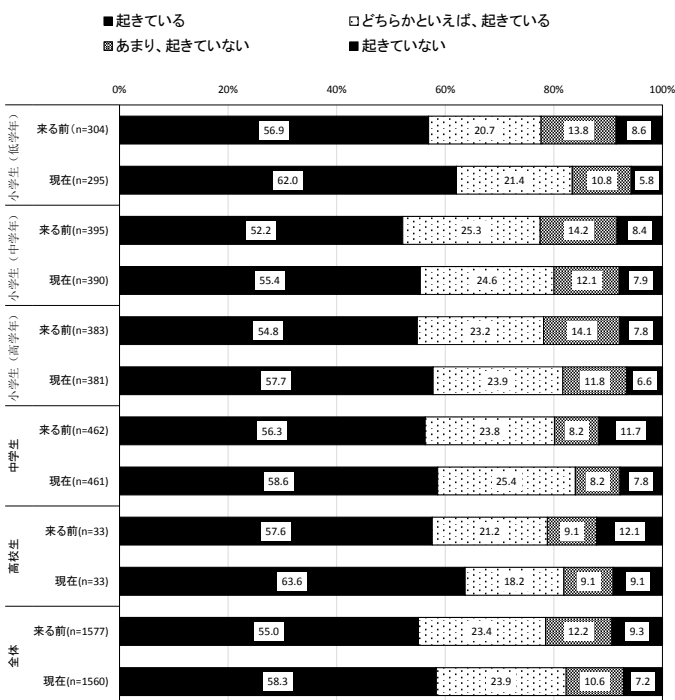
「来て良かったと思う」と回答した割合は、2016年度が66.6%で、2017年度が73.0%となっている。また、「来て良かったと思う」と「どちらかといえば来て良かったと思う」をあわせた回答割合は、2017年度が88.4%で、2016年度が88.1%となっており、いずれも割弱が肯定的に居場所を評価している。

■ 子供たちの変化

① 生活環境

◇ 学年別に見た起床時間の規則性 (ふだん、ほぼ同じ時刻に起きているか)

◇ 学年別に見た朝食の頻度



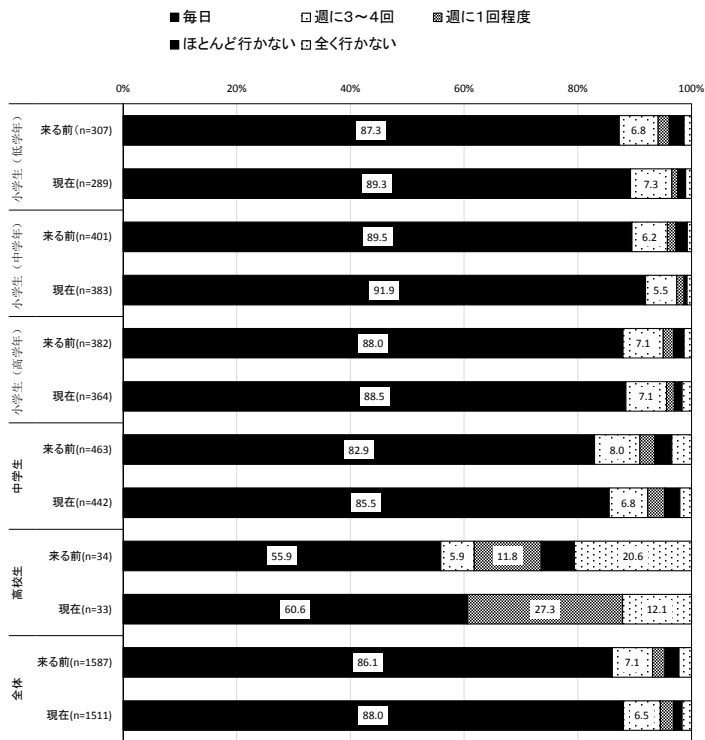
来る前と現在の变化を見ると、すべての学年で「起きている」と回答する割合が増えている。

来る前と現在の变化を見ると、小学生中学年で「週に4~5回」が3.4ポイント増加しているが、全体としては大きな差は見られない。

■子供たちの変化

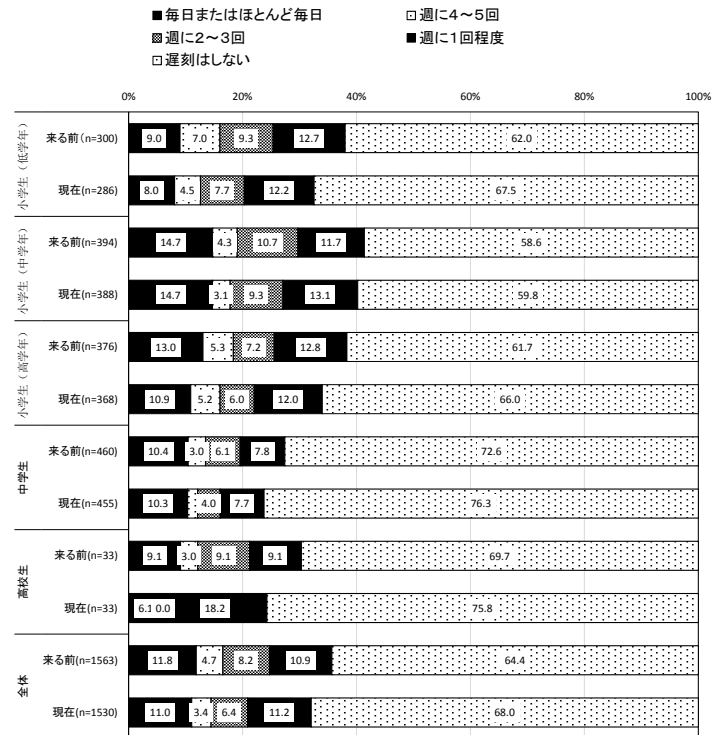
②教育環境（登校頻度と遅刻）

◇学年別に見た登校頻度



来る前と現在の変化をみると、すべての学年において「毎日」学校へ登校する割合が高くなっている。

◇学年別に見た学校への遅刻頻度

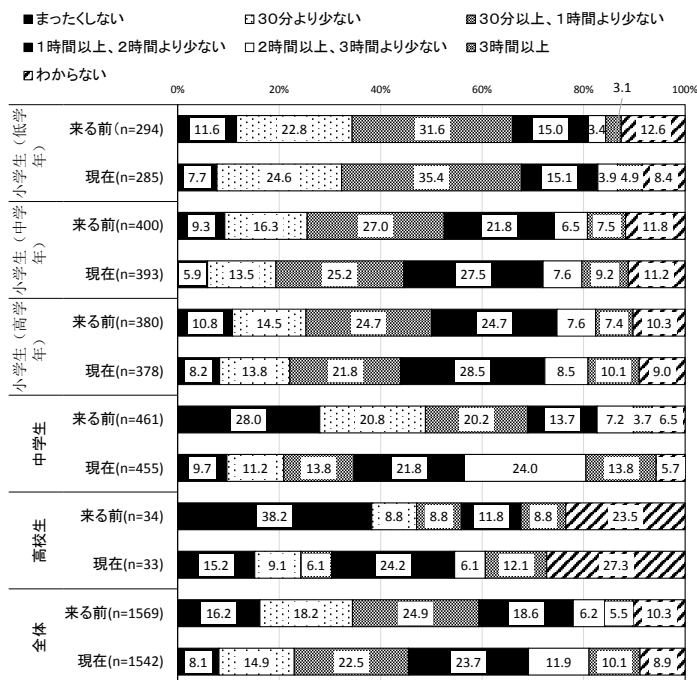


来る前と現在の変化をみると、特に「遅刻はしない」において、小学生低学年(5.5ポイント)、小学生高学年(4.3ポイント)、中学生(3.7ポイント)、高校生(6.1ポイント)で高くなっている。

■子供たちの変化

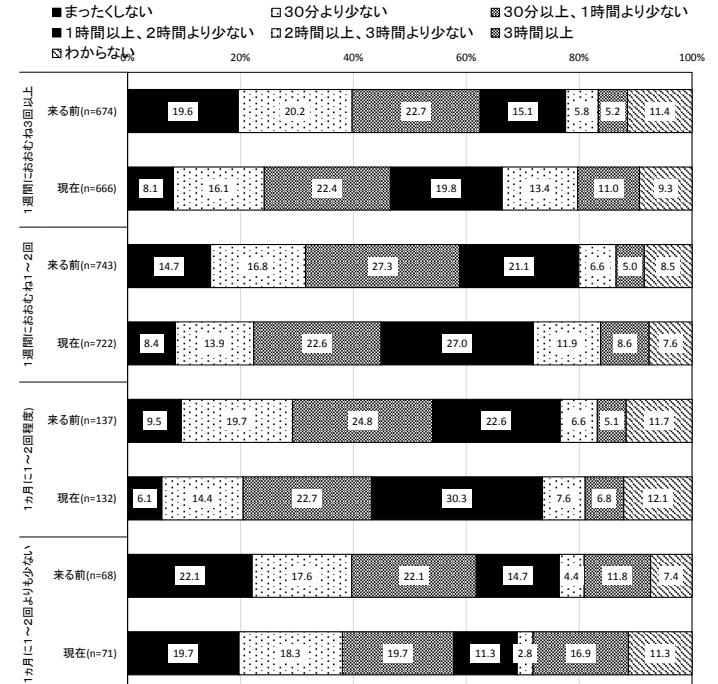
②教育環境（勉強時間）

◇学年別に見た、学校がある日の授業時間以外での勉強時間



来る前と現在では、中学生の勉強時間が増加している。中学生の「3時間以上」(10.1ポイント)、「2時間以上、3時間より少ない」(16.8ポイント)で高くなっている。

◇居場所利用頻度別に見た、学校がある日の授業時間以外での勉強時間

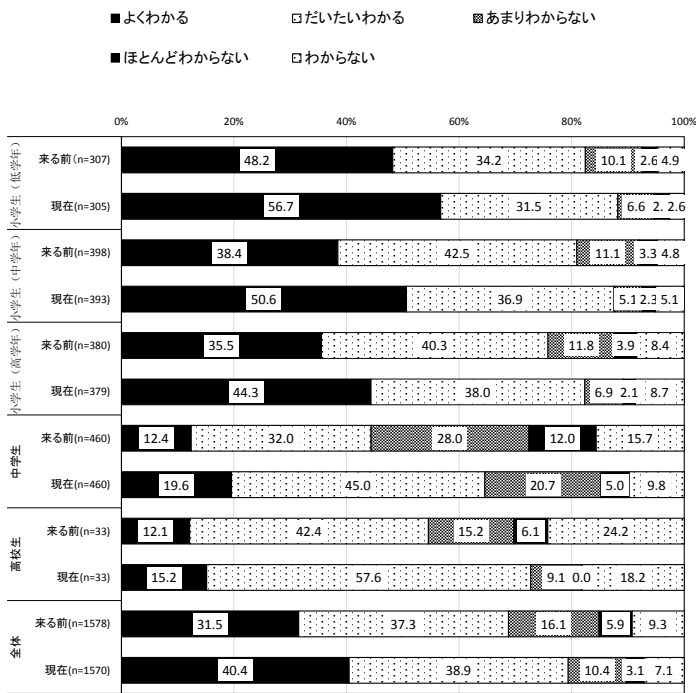


1週間におおむね3回以上、1週間におおむね1~2回の利用群において、「まったくしない」が低くなっている。しかし、1か月に数回の利用者では、こうした傾向は顕著ではない。

■子供たちの変化

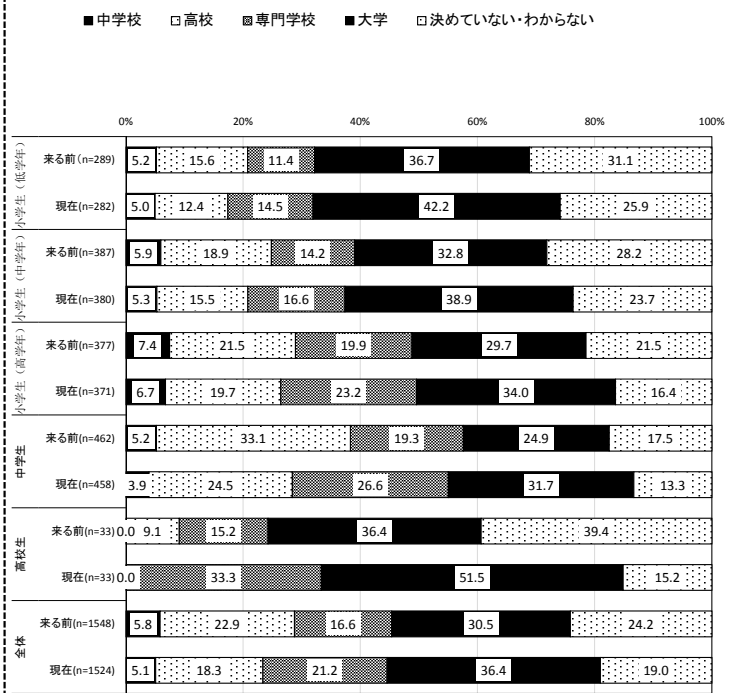
②教育環境（学習への気持ちと希望する進学先）

◇学年別に見た学習への気持ち



来る前と現在の変化をみると、各学年において、居場所に来る前より現在の方が、学校の勉強を理解できているという意識が高まる傾向がみられる。

◇学年別に見た希望する進学先

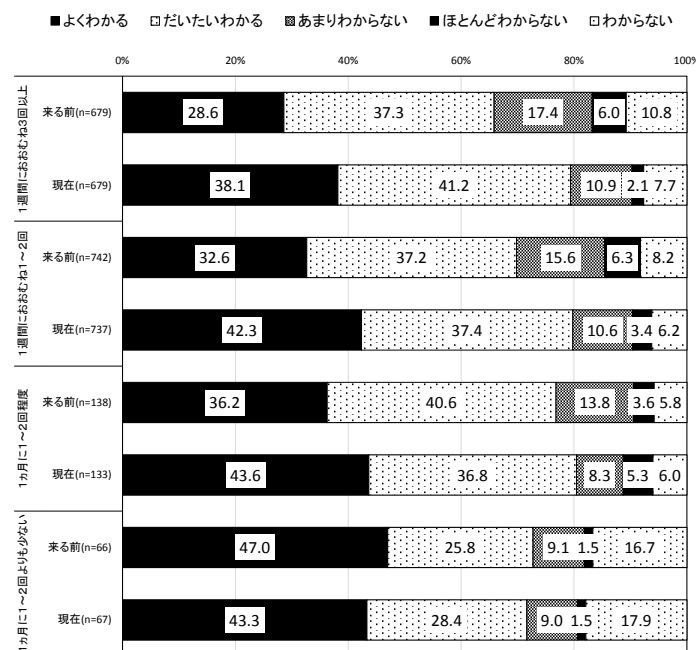


来る前と現在の変化をみると、どの学年においても、大学進学を希望する割合が、来る前より現在の方が高くなっている。

■子供たちの変化

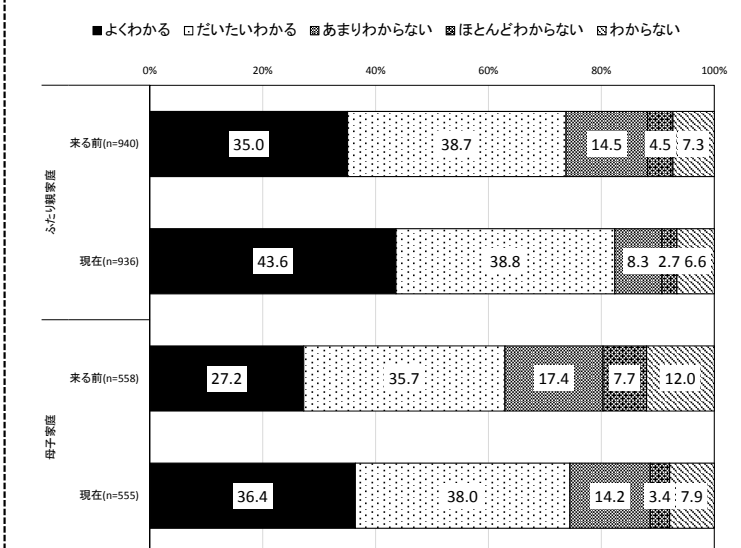
②教育環境（学習への気持ち）

◇利用頻度別に見た学習への気持ち



「1週間におおむね3回以上」、「1週間におおむね1~2回」といった1週間に数回利用する群では、来る前より現在の方が、「よくわかる」と回答する割合が高くなっている。

◇世帯構成別に見た学習への気持ち

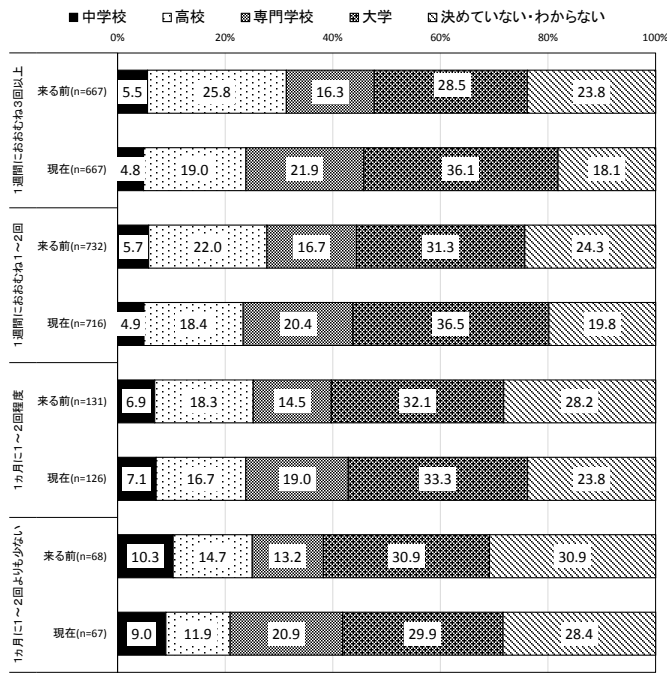


来る前と現在の変化を見ると、どちらの家庭も「よくわかる」「だいたいわかる」の割合が増えている。特に、母子家庭(11.5ポイント増)の方が、ふたり親家庭(8.7ポイント増)よりも高くなっている。着目すべき点は、母子家庭の「わからない」が約4.1ポイント減っていることである。

■子供たちの変化

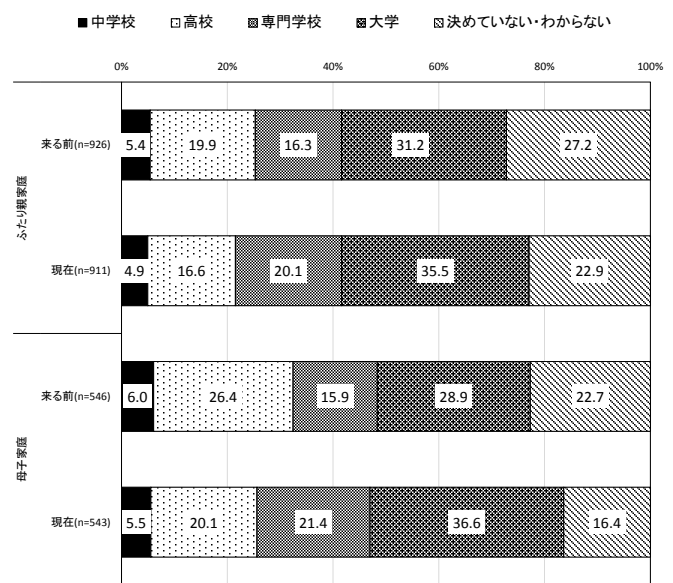
②教育環境（希望する進学先）

◇利用頻度別に見た希望する進学先



来る前と現在との変化を見ると、「1週間におおむね3回以上」において、高校までの希望は6.8ポイント減り、専門学校は5.6ポイント、大学は7.6ポイント増えている。大学への進学希望の増加は、高頻度利用者（1週間に3回、もしくは1週間に1~2回）において顕著である。

◇世帯構成別に見た希望する進学先

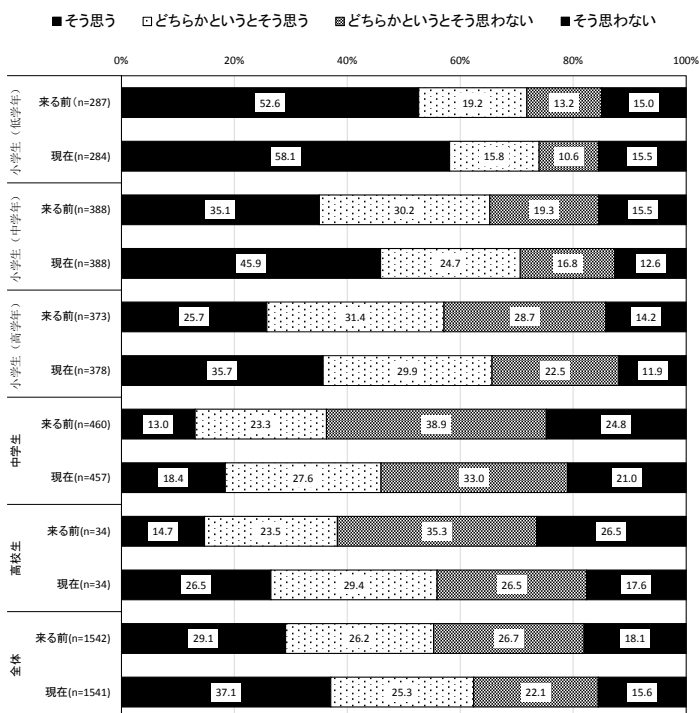


世帯構成別の希望する進学先を見ると、全体として、「高校」の割合が減り、「専門学校」「大学」の割合が増えている。母子家庭の方が、こうした変化は顕著である。また、母子家庭の「決めていない・わからない」は来る前に比べて、現在の方が6.3ポイント低くなっている。

■子供たちの変化

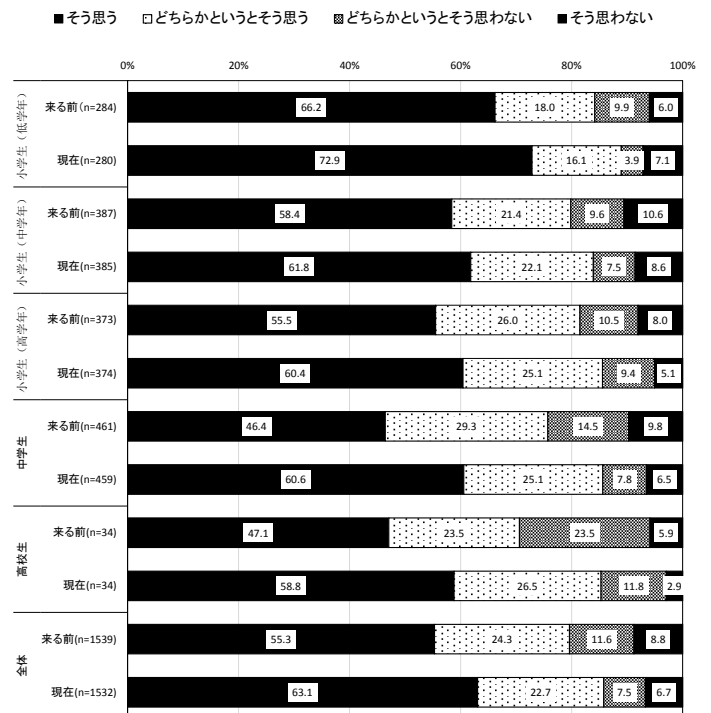
③社会環境（自己効力感）

◇学年別に見た、自分への自信（自分に自信がある）



来る前と現在の変化を見ると、どの学年においても「そう思う」が増加しており、来る前より現在の方が、自分に自信があるという意識が高くなっている。

◇学年別に見た、頑張る気持ち（将来のためにも今頑張りたいと思う）

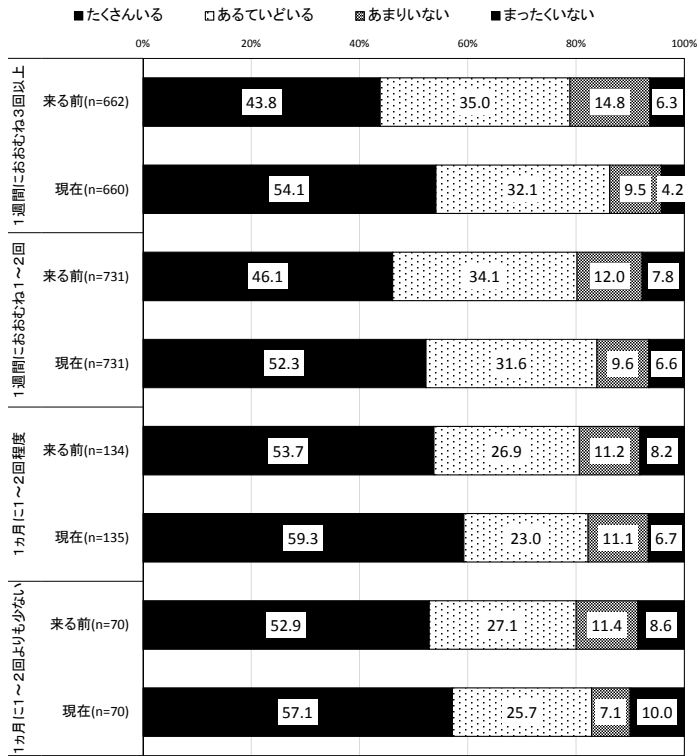


来る前と現在の変化を見ると、すべての学年で「そう思う」が増加するなど、来る前より現在の方が、将来のためにも今頑張りたいという意識を持つ傾向にある。

■子供たちの変化

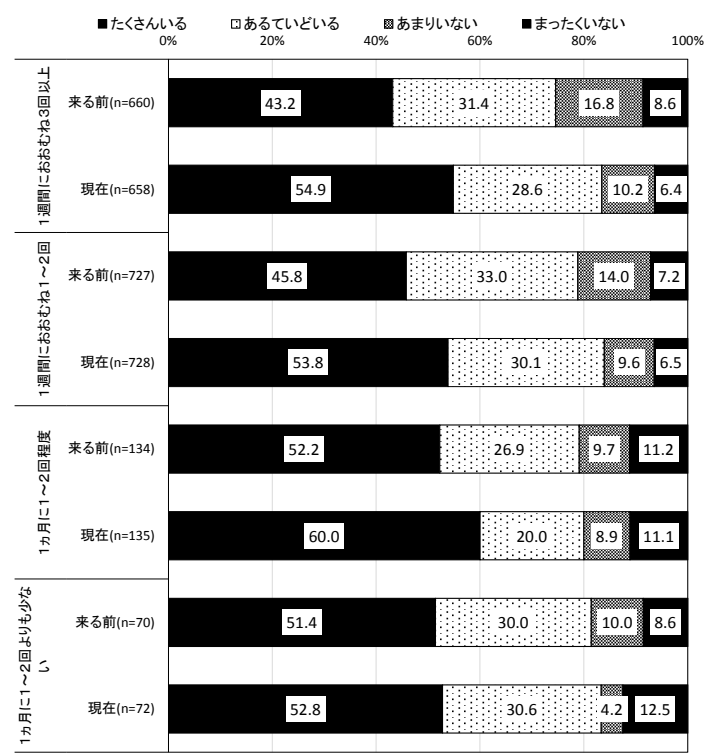
③社会環境（対人関係）

◇居場所利用頻度別に見た、勉強やスポーツをがんばったときにほめてくれる人



全体的に、来前に比べ現在では、「たくさんいる」と回答した人の割合が高くなっている。

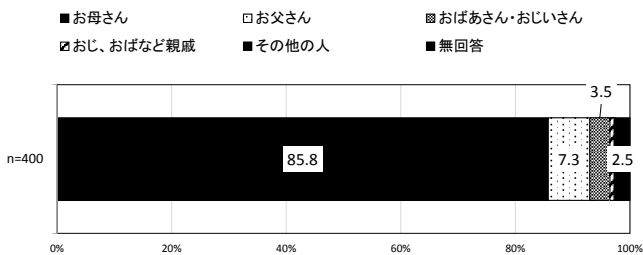
◇居場所利用頻度別に見た、悩んでいるときにどうしたらよいか教えてくれる人



「まったくいない」と回答する割合は、1週間に数回利用群より、1か月に数回利用群の方が高い。

3 支援員に関する調査結果

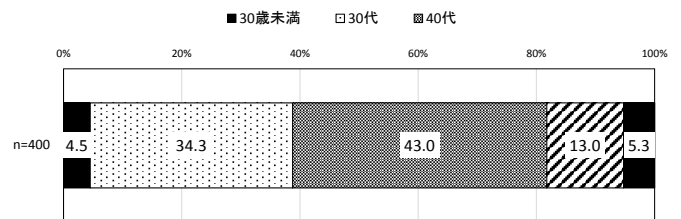
◇回答者の内訳



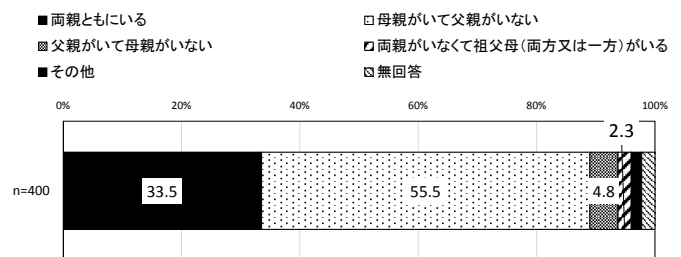
回答者の有効サンプルは400名。
続柄は、
「お母さん」が85.8%、
「お父さん」が7.3%、
「おばあさん・おじいさん」が3.5%、
「おじ、おばなど親戚」が0.8%、
「その他の人」が0.3%、
「無回答」が2.5%である。

回答者の人数は、昨年度の245名から400名と増えている。

◇回答者の年代・世帯構成



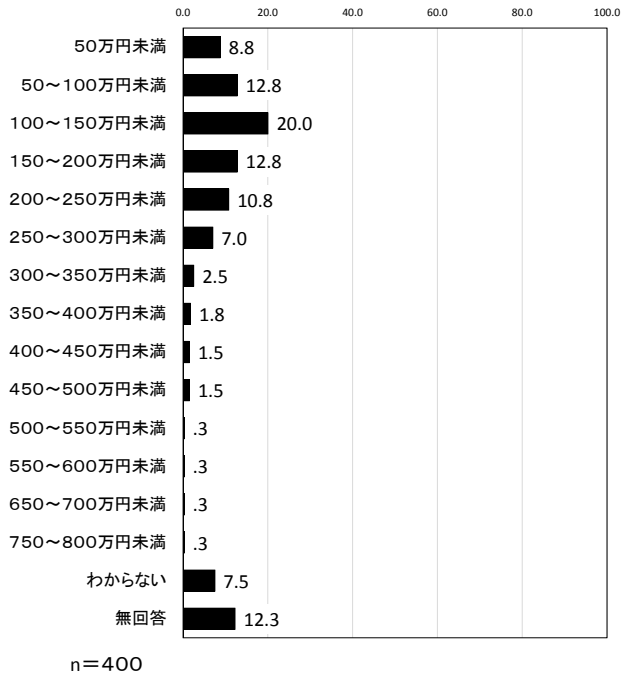
回答者の年代は、30代と40代で7割以上を占めている。



両親ともいる世帯は3割
母子世帯は5割
ひとり親世帯は6割を超えている。

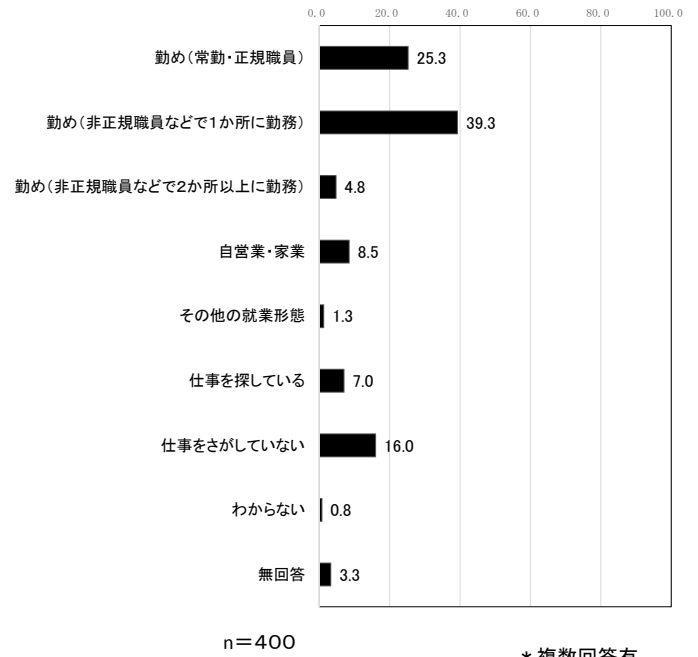
■経済状況等

◇回答者の経済状況（世帯年収）



200万円未満は5割を超えている。
50万円未満が8.8%いることも注目すべき点である。

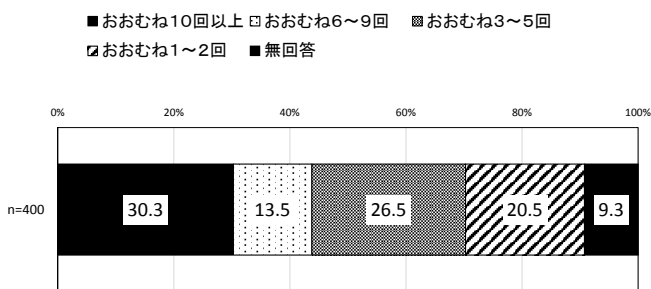
◇回答者の就労状況



非常勤の勤めは約4割となっている。
一方、求職中であったり仕事をさがしていないというケースは2割ある。

■支援に関すること

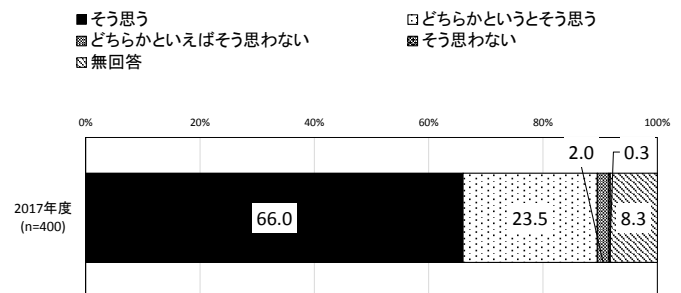
◇支援員に会った回数



支援員に会った回数は、「おおむね10回以上」が30.3%、「おおむね6~9回」が13.5%、「おおむね3~5回」が26.5%、「おおむね1~2回」が20.5%、「無回答」が9.3%である。おおむね10回以上が3割と最も多い。

※本項目は、期間を設定していない。そのため、支援員に会った回数が多いことが、短い期間に頻繁に支援員と会ったのか、それとも、支援員とはたまにしか会っていないが支援員との交流期間が長いために回数が積み重なったのかについては、どちらも言えない。

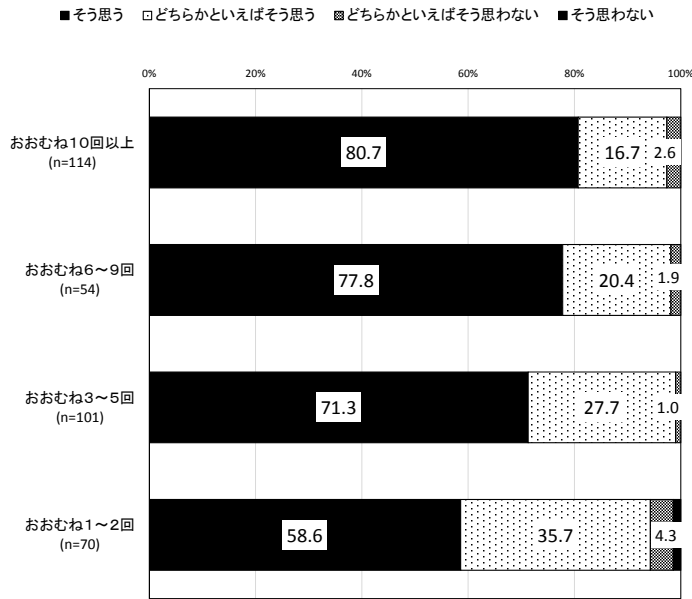
◇支援員に会った感想



「そう思う」「どちらかというと思う」を合わせると89.5%となり、肯定的な評価を得ている。

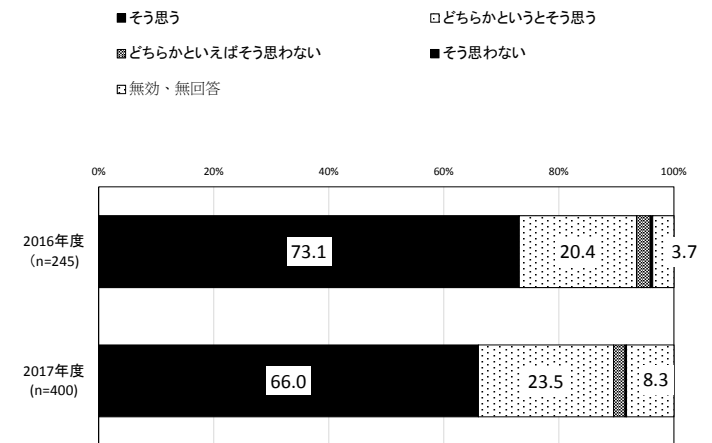
■ 支援に関すること

◇ 支援回数別に見た支援員の感想



支援員に会った回数が増加するほど、「そう思う」という回答の割合が増加している。

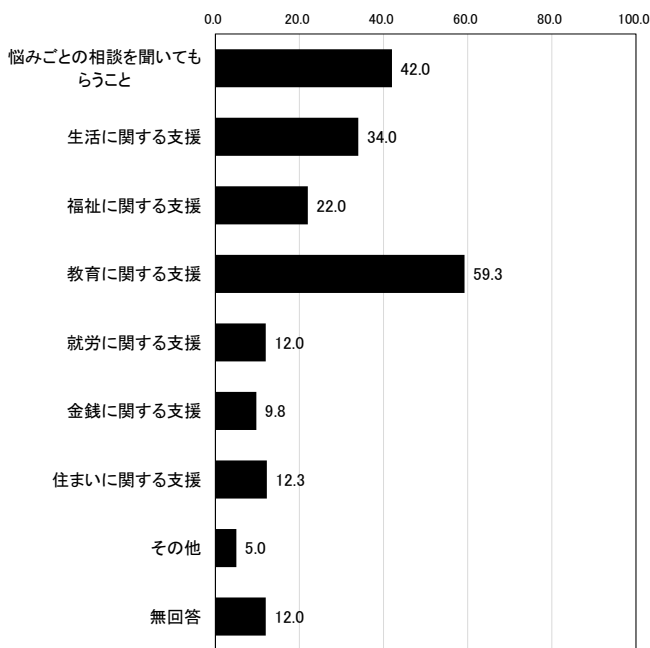
◇ 2016年度と2017年度の支援員の感想



2016年度と比較すると2017年度の「そう思う」の割合が7.1ポイント低くなっているものの、どちらの調査においても「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」が約9割を占めており、おおむね同様の傾向となっている。

■ 支援員に関すること

◇ 役に立ったサポート

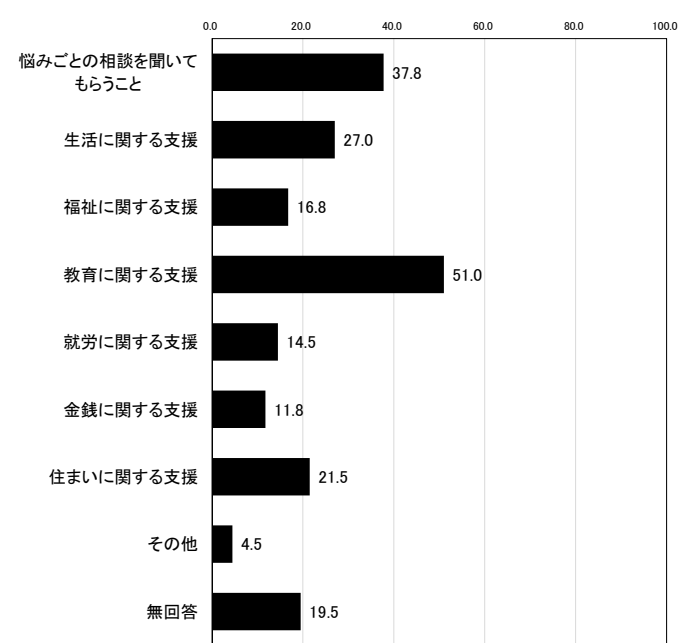


n=400

* 複数回答有

教育に関する支援や悩みごとの相談を聞いてもらうことという回答が多い。

◇ 今後受けてみたいサポート



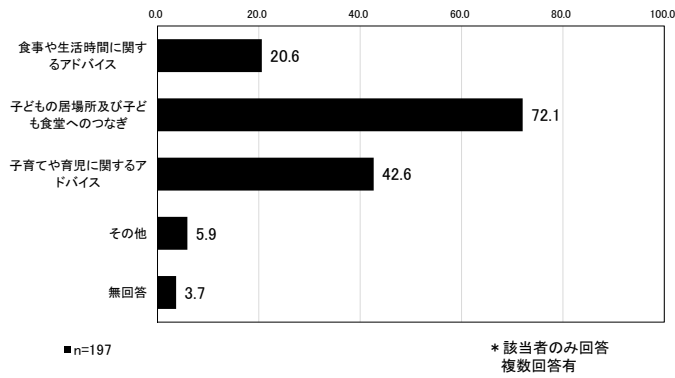
n=400

* 複数回答有

教育に関する支援、悩みごとの相談を聞いてもらうが高い傾向にある。

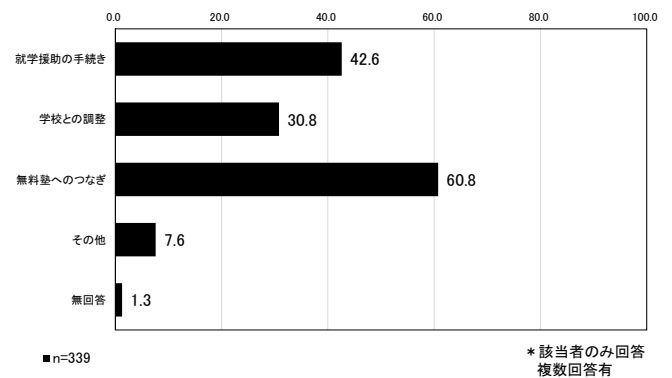
■ 支援員に関すること (支援員から受けたサポート)

◇ 生活に関する支援



生活に関する支援については、「食事や生活時間に関するアドバイス」は20.6%、「子供の居場所及び子供食堂へのつながり」は72.1%、「子育てや育児に関するアドバイス」は42.6%、「その他」は5.9%、「無回答」は3.7%である。子供の居場所や子供食堂へのつながりが多くなっている。

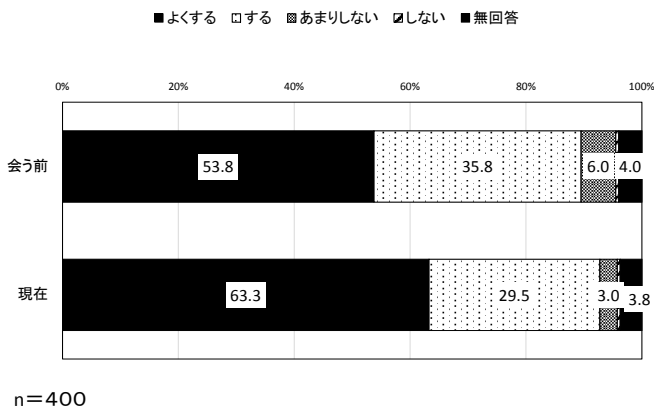
◇ 教育に関する支援



教育に関する支援は「就学援助の手続き」は42.6%、「学校との調整」は30.8%、「無料塾へのつながり」は60.8%と多い。「その他」は7.6%、「無回答」は1.3%である。

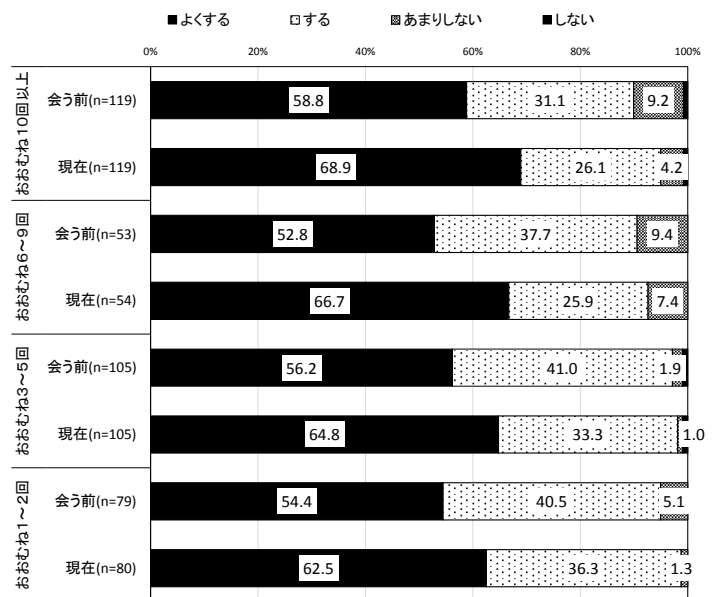
■ 保護者の変化 子供との関係について

◇ 子供との会話



支援員と会う前と現在の変化をみると、「よくする」において、8.5ポイントの差がみられる。

◇ 支援回数別に見た子供との会話

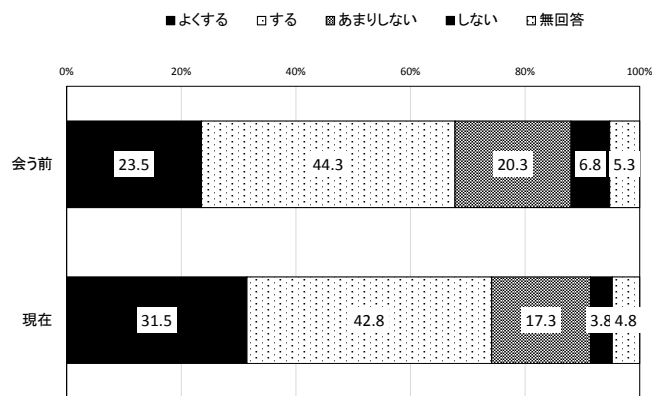


全体的に支援員に会う前よりも現在のほうが「よくする」と回答した割合が高くなっている。「おおむね6~9回」では13.9ポイント、「おおむね10回以上」では10.1ポイントの差が生じている。

■保護者の変化

子供との関係について

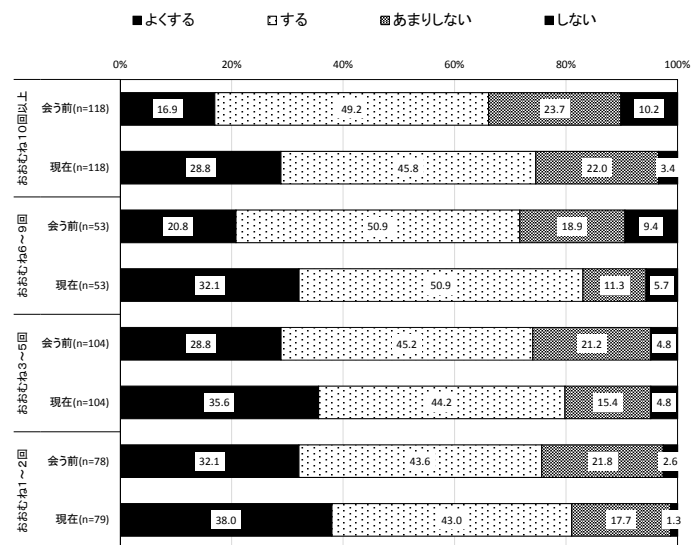
◇将来の夢について話し合う機会



n=400

支援員と会う前と現在の変化をみると、特に「よくする」において、8.0ポイントの差がみられる。

◇支援回数別に見た、将来の夢について話し合う機会



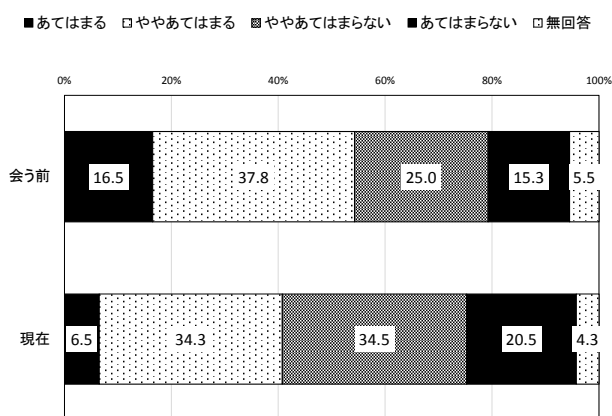
全体的に支援員に会う前よりも現在のほうが「よくする」と回答した割合が高くなっている。「おおむね3~5回」では6.8ポイント、「おおむね6~9回」では11.3ポイント、「おおむね10回以上」では11.9ポイントの差が生じている。

20

■保護者の変化

子育てについて

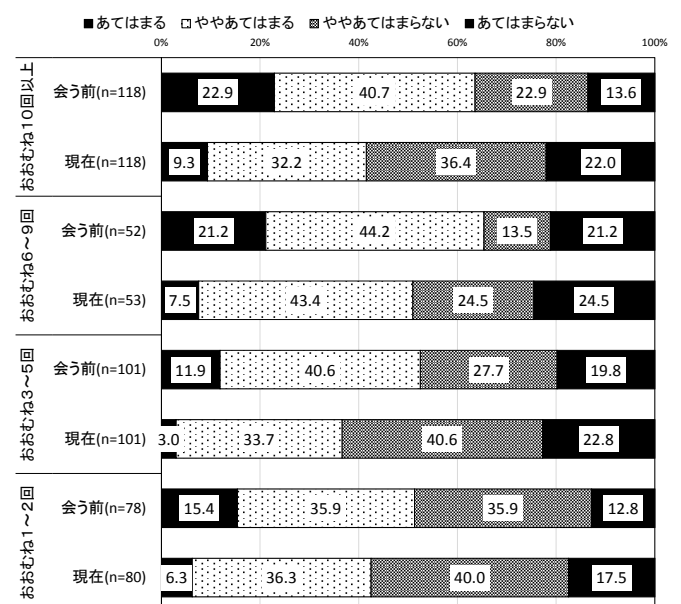
◇子育てについて (ついつい子供にあたる)



n=400

支援員に会う前と現在の変化をみると、特に「あてはまる」において、10ポイント減少しており、また「ややあてはまらない」においては9.5ポイント増加している。

◇支援回数別に見た、子育てについて (ついつい子供にあたる)

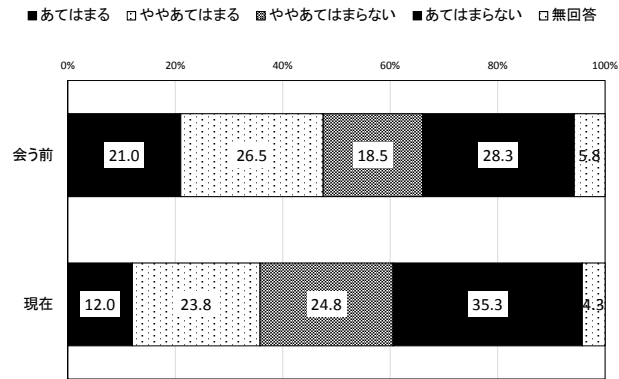


全体的に支援員に会う前よりも現在のほうが「あてはまる」と回答した割合が低くなっている。「おおむね6~9回」では13.7ポイント、「おおむね10回以上」では13.6ポイントの差が生じている。

21

■保護者の変化 子育てについて

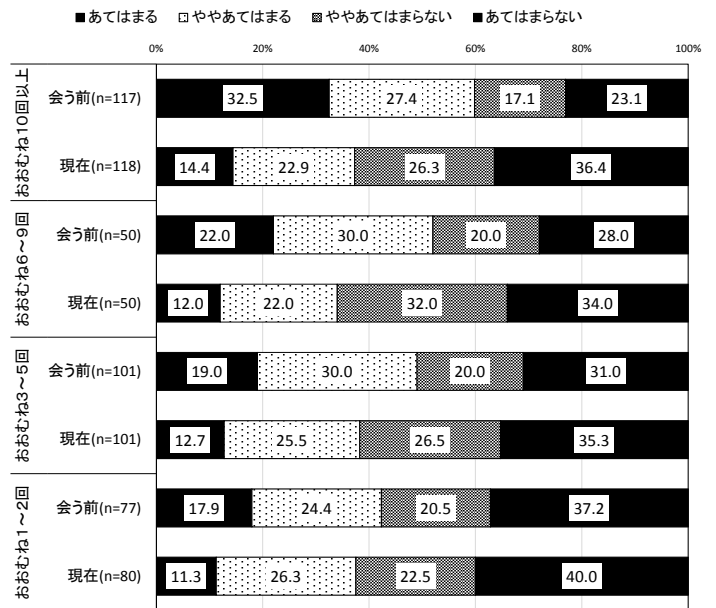
◇子育てについて (自分一人で育てているという圧迫感を感じる)



n=400

支援員に会う前と現在の変化をみると、特に「あてはまる」において、9ポイントの差がみられる。

◇支援回数別に見た、子育てについて (自分一人で育てているという圧迫感を感じる)

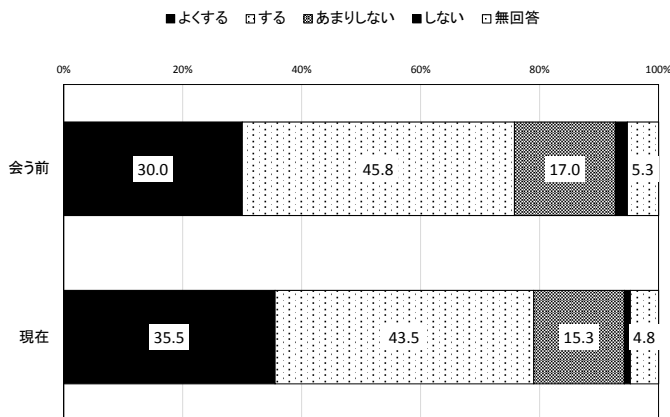


支援員に会う前よりも現在のほうが「あてはまる」と回答した割合が低くなっている。「おおむね6~9回」では10.0ポイント、「おおむね10回以上」では18.1ポイントの差が生じている。

22

■保護者の変化 子供との関係について

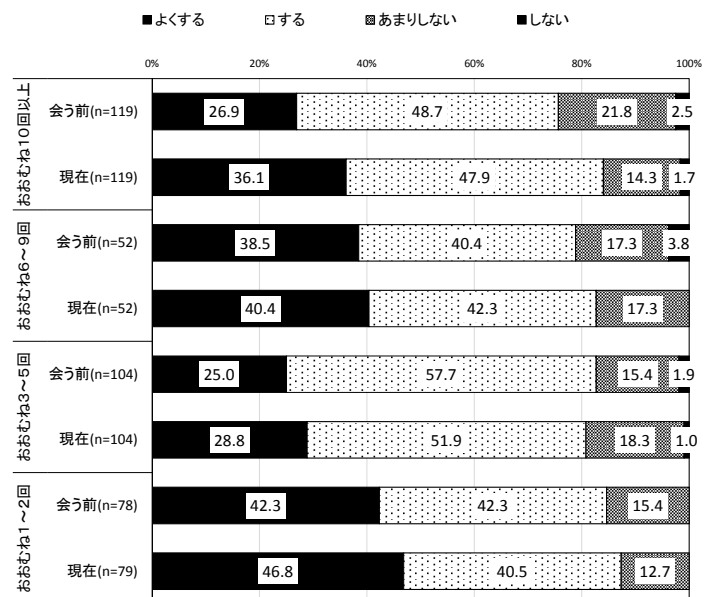
◇子供と過ごす時間



n=400

支援員と会う前と現在の変化をみると、特に「よくする」において、5.5ポイントの差がみられる。

◇支援回数別に見た子供と過ごす時間



全体的に支援員に会う前よりも現在のほうが「よくする」と回答した割合が高くなっている。「おおむね3~5回」では3.8ポイント、「おおむね10回以上」では9.2ポイントの差が生じている。

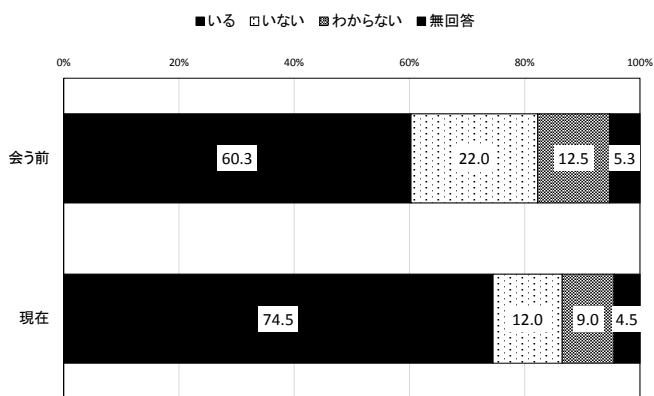
23

■保護者の変化

対人関係について

◇対人関係について

(心配ごとや悩みごとを親身になって聞いてくれる人)

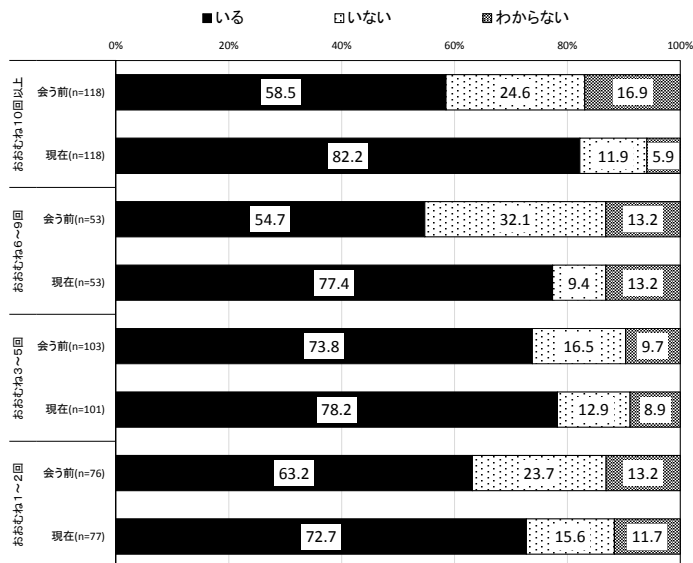


n=400

支援員と会う前と現在の変化をみると、特に「いる」において14.2ポイントの増加がみられる。

◇支援回数別に見た、対人関係について

(心配ごとや悩みごとを親身になって聞いてくれる人)



支援員に会った回数が多い場合に、支援員に会う前よりも現在のほうが「いる」と回答した割合が高くなっている。「おおむね6~9回」では22.7ポイント、「おおむね10回以上」では23.7ポイントの差が生じている。

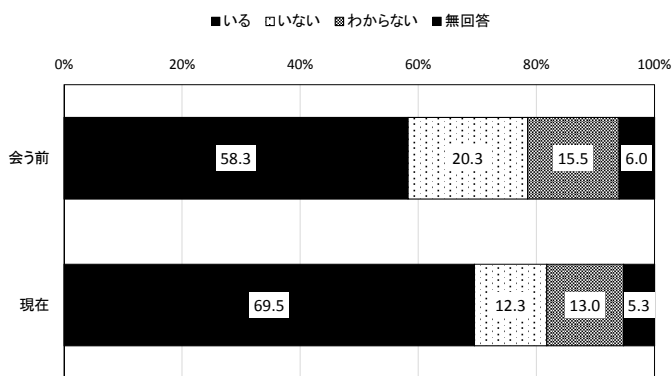
24

■保護者の変化

対人関係について

◇対人関係について

(あなたの気持ちを察して思いやってくれる人)

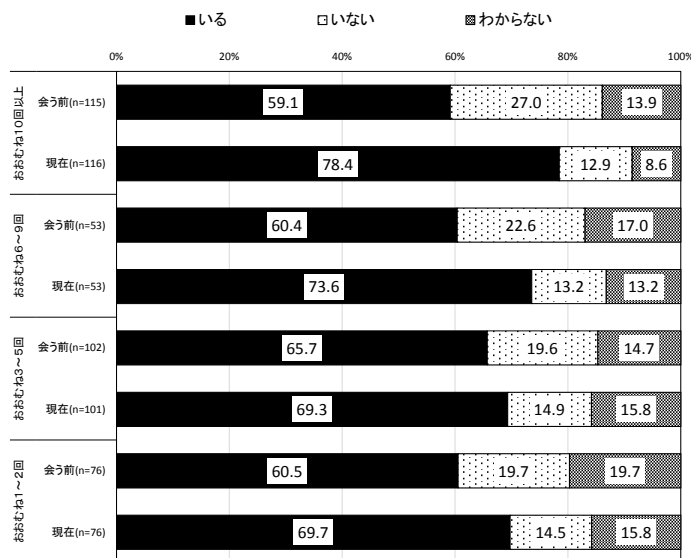


n=400

会う前と現在の変化をみると、特に「いる」において11.2ポイントの増加がみられる。

◇支援回数別に見た、対人関係について

(あなたの気持ちを察して思いやってくれる人)

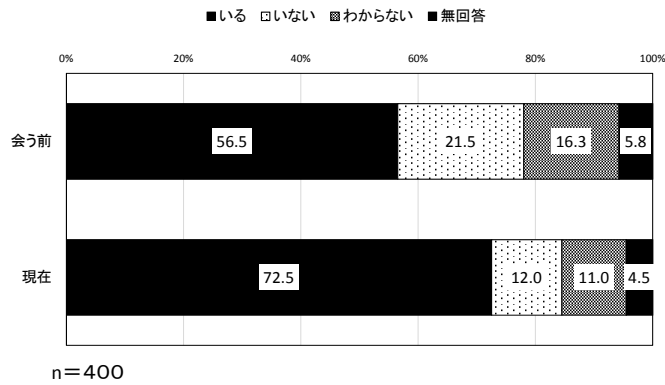


支援員に会った回数が多い場合に、支援員に会う前よりも現在のほうが「いる」と回答した割合が高くなっている。「おおむね6~9回」では13.2ポイント、「おおむね10回以上」では19.3ポイントの差が生じている。

25

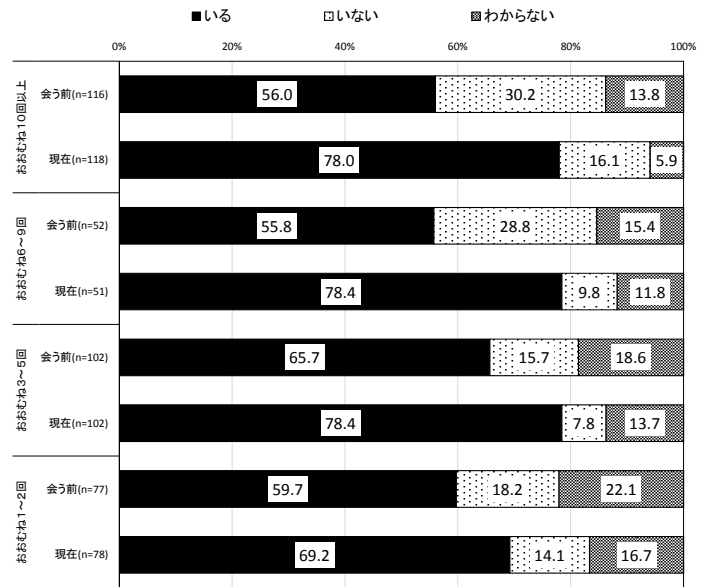
■保護者の変化 対人関係について

◇対人関係について
(子供との関わりについて、
適切な助言をしてくれる人)



支援員に会う前と現在の変化をみると、特に「いる」において16.0ポイントの増加がみられる。

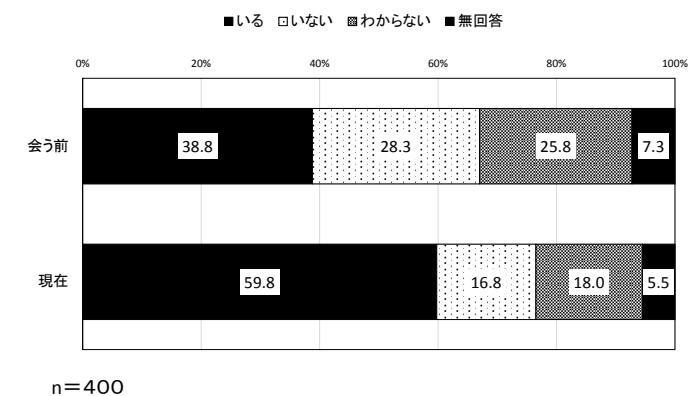
◇支援回数別に見た、対人関係について
(子供との関わりについて、
適切な助言をしてくれる人)



全体的に支援員に会う前よりも現在のほうが「いる」と回答した割合が高くなっている。「おおむね6~9回」では22.6ポイント、「おおむね10回以上」では22.0ポイントの差が生じている。

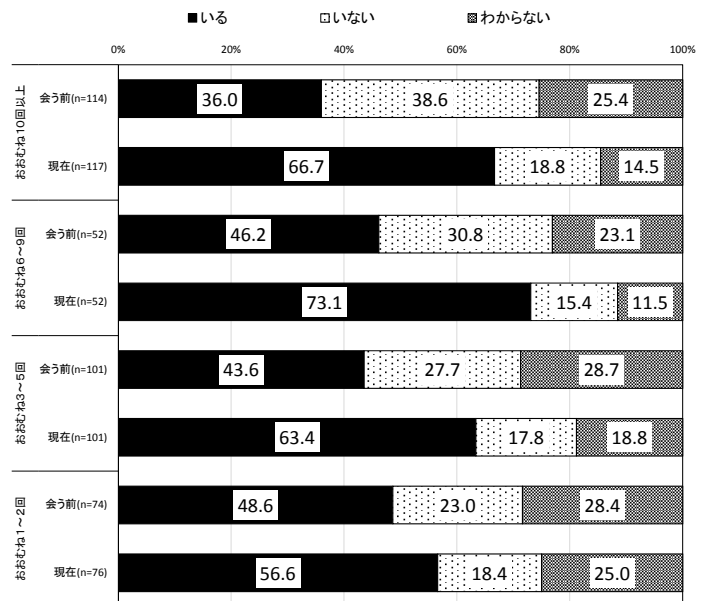
■保護者の変化 対人関係について

◇対人関係について
(子供の学びや遊びを
ゆたかにする情報を教えてくれる人)



支援員に会う前と現在の変化をみると、特に「いる」において21.0ポイントの増加がみられる。

◇支援回数別に見た、対人関係について
(子供の学びや遊びを
ゆたかにする情報を教えてくれる人)



全体的に支援員に会う前よりも現在のほうが「いる」と回答した割合が高くなっている。「おおむね6~9回」では26.9ポイント、「おおむね10回以上」では30.7ポイントの差が生じている。

■調査結果の考察（総合考察）

1 事業効果について

(1) 子供の居場所

- 今回の調査から、居場所は子供の貧困対策として一定の効果が認められる。
- 特に家庭では経験しにくい多様な体験ができること、対人関係や学習意欲にも一定効果が見られた。
- 居場所の利用頻度によって子供が学習について理解度が高まると認識していること、高等教育への進路希望が高まることがわかった。
- 食事や不登校については明確に関連が見られなかった。
- 今後、居場所を増やし質的に何が効果的なのか、内容の充実を図りながら、子供の変化をもっと追っていく必要がある。

(2) 子供の貧困対策支援員

- 母親は支援員から支援を受けたことで精神的に支えられたと感じ、子供とのネガティブな関わりが減り、子供と関わりを増やそうとしていた。
- 母親は、支援頻度が高まるほど変化がもたらされている。どのように子供と接したら良いか簡単なアドバイスをもらって立ち直れる人も多いことがうかがえる。

2 今後の政策課題について

子供の居場所が自身の校区になれば、小学生などは自分で出向くことができない。特に、就学援助率の高い地域等への居場所設置について早急に対処すべきである。

28

■子供の声（自由記述欄より）

- 勉強が分かりやすくできる。漢字の書き順がまちがっていればおしえてくれる。
- 友だちもいっぱいできて、うれしいし楽しいからこの居場所に来て良かったと思います。
- 家に引きこもらなくなった。友達もできた。共通のしゅみをもっている子と話してて楽しい。そして少し学校に行けるようになった。
- ここに来るまでは、学校のことをあまりきにしなかったけど、さいきん考えるようになった。この調子でふつうに行けるようになりたい。
- 新しい友だちができた。新しいことにちょうせんできた。新しいことにちょうせんしたことではじんがついた。もっといろんな〇〇クラブをつくってほしい。バイオリンや三味線などのさわったことのないがっきがさわられてよかった！来年もやりたい。
- 何のために勉強しているか、ばくぜんとしていたけど、今は何のために勉強しているかがよくわかる。自分のために勉強してる。目標が今はできた。今までずっとつらかった。でもがんばって、将来自分も●●さん（支援員）みたいな大人になりたい。自分みたいな子の手だすけをする。そんな大人になりたい。
- がっこうでは、さべつされてずっといじめられていました。でもここにきて自分にじしんをもちました。自分は、いいから人にやさしくしてほしい。おねがいます。

29

■保護者の声（自由記述欄より）

- 今、現在生活保護ですが、こどもが3人いますので子供未来の支援員の方が居ると、とても不安なく子供の将来の事を考えられます。不安なくとはいいすぎかもしれませんが、一人悩むより相談窓口があるのと無いのでは、不安をかかえがち、前向きには考えられない時もあるので、相談できる場所を知ってるだけでも安心です。※無料じゅくにもつなげてもらえました。
- 支援員さんのサポートで就学援助（準要保護）を受けることができ、又無料塾へもかよわせることが出来ました。ほんとに助かりました。感謝しております。
- 子ども本人は学習意欲が高いですが、経済的理由で塾や中学受験をあきらめていました。サポート支援を受け塾へ通える事になり、子ども本人がすごく喜んでいきます。中学受験は見送り、高校受験でより高いレベルを目指すとともに学習意欲が高まっているので、私も嬉しく思っています。ありがとうございます。
- 就学援助制度の事は、知っていたけど去年まで対象外だったので今年もできないと思っていたけど支援員の方（●●役場の●●さん）が、わざわざ家に訪ねてきてくださり、受ける事ができると知りすぐに！！手続きを行ってくれました。この方がいなかったら、分からないままだったし、本当に感謝しかないです。その後も、何かと生活の事だったりと色々心配してくれ時間があれば訪ねてきてくれて心から信頼しています。
- 子供の笑顔がふえた。
※子供が明るくなった。少しずつですが学校にいこうとするしせいがあつた。